

## AGHポーランドでのエネルギー、環境に関連した調査研究

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2026年02月24日 ～2026年03月05日	ポーランド		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹機械コース、先進機械コース、環境・物質工学コース、機械工学科、機械機能工学科、応用化学科、土木工学科、都市・環境コース、基幹機械コース</li> <li>・学部1年生、学部2年生、学部3年生</li> </ul>	(芝浦工業大学) 教員1名	古川 琢磨(機械工学課程先進機械コース)

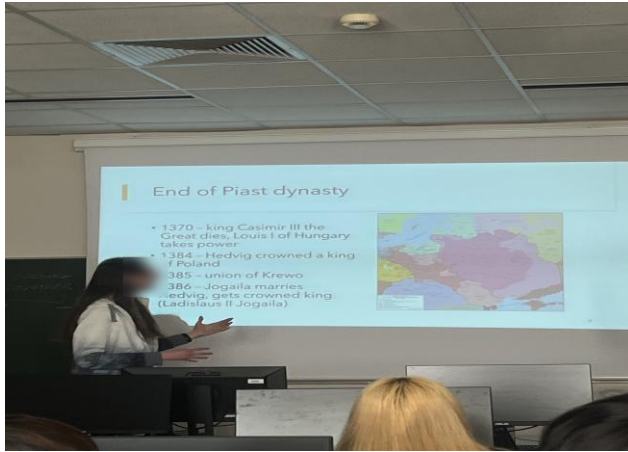


図1 PBL

2026年2月23日から3月7日(PBL実施期間:2月24日～3月6日)にかけて、ポーランド・クラクフのAGH科学技術大学において、芝浦工業大学(SIT)から16名、AGHから8名の学生が参加する合同PBLを実施した。本プログラムではエネルギー・環境問題をテーマに据え、両大学の学生によるグループディスカッション、資料調査、およびその成果発表会を行った。発表会においては、一例として炭素の使用方法に関する問題を取り上げ、日本とポーランドそれぞれの観点から評価・考察を行うなど、プログラム全体を通して学生間で非常に盛んな議論が交わされた。また、学術的な交流に加えてエクスカーションとしてヴィエリチカ岩塩坑の見学を実施したほか、有志者によるアウシュヴィッツ強制収容所の見学も行い、現地の歴史や文化に対する理解を深める機会となった。



図2 PBL



図3 岩塩坑



図4 クラクフ市内



図5 クラクフ市内

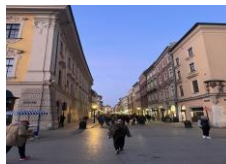


図6 クラクフ市内



図7 クラクフ市内